

## 厚生環境委員会・県外視察報告

### 1 調査日

令和元年8月27日（火）～令和元年8月29日（木）

### 2 出席委員等

山崎宗良委員長、種部恭子副委員長、山本徹委員、平木柳太郎委員、井加田まり委員、川島国委員、藤井大輔委員、津本二三男委員  
（その他、執行部が参加）

### 3 調査の概要

○令和元年8月27日（火）

#### （1）株式会社恋する豚研究所

調査項目：障害者就労支援事業所の運営状況について

応 対 者：社会福祉法人福祉楽団

内 容：株式会社恋する豚研究所は、社会福祉法人福祉楽団が運営する就労継続支援A型事業所であり、ブランド肉「恋する豚」の精肉、ベーコン・ハム等の製造・販売や、併設するレストランでの豚肉を用いた定食等の提供を行っている。また、同敷地内には昨年、「栗源第一薪炭供給所」（就労継続支援B型事業所）が設立され、福祉と農業、林業が連携した取組みを積極的に展開している。耕作放棄地の活用や高齢者の就業など、地域の困り事を解決すべく年々事業を拡大しており、今後は、少年院出院者の支援、キャンプ場やコテージの建設などが計画されている。



(株)恋する豚研究所

## (2) 社会福祉法人カリヨン子どもセンター

調査項目：子どもシェルター及び自立援助ホームの運営について

応 対 者：社会福祉法人カリヨン子どもセンター

内 容：カリヨン子どもセンターが運営する施設について調査した。

支援対象は義務教育終了後の15～19歳がメインであり、2004年から延べ400名が入居。当初は女子が多かったが、2年前から男女半々の比率になっている。行き場のない子供たちのために大人がスクラムを組み、子供たちが今何を思っていて、どうしたいのかを、何度もくり返し対話して聞き出すことを大切にしている。都の補助金も出ているが、運営は、市民や企業からの寄付金で支えられている。



文京福祉センター江戸川橋 会議室にて

## (3) 世田谷区立産後ケアセンター

調査項目：産後ケアセンターの運営について

応 対 者：世田谷区子ども・若者部子ども家庭課、産後ケアセンター

内 容：日本初の産後ケアに特化した施設として平成19年度に開設されたセンターを訪問し、運営状況等について調査した。

世田谷区は他の自治体と比較して35歳以上の高齢出産が多く、第1子出産時の母の年齢が上昇傾向で推移しており、出産の高齢化が進んでいる。また、祖父母と同居もしくは近居ではない世帯が全体の65%を占めている。そのような中、都市型の実家機能を補うために産後ケア事業が始まった。平成30年度のセンター利用実数は871組。一度に最大15組が利用でき、利用者同士での相談や情報交換がストレス軽減につながり、産後ケアの効果にもつながっている。



世田谷区立産後ケアセンター

○令和元年8月28日(水)

(4) イワタニ水素ステーション芝公園・TOYOTA MIRAI ショールーム

調査項目：環境に配慮した水素エネルギーの活用について

応 対 者：岩谷産業株式会社、TOYOTA MIRAI ショールーム

内 容：この施設は、燃料電池自動車（FCV）や水素を身近なものに感じてもらうことを目的に建設された、水素ステーション内併設型のFCVショールームである。施設見学後、希望者によるMIRAIの試乗体験も行った。(試乗は10分コース) MIRAIはCO<sub>2</sub>を排出せず、水が排出される環境に優しい自動車である。水素1kgあたり1,080円、5kgで満タン、3分で充てん完了。水素を漏らさないための安全対策を随所に施している。



イワタニ水素ステーション芝公園・TOYOTA MIRAI ショールーム

(5) デイブレイク株式会社

調査項目：食品ロス削減に対する取組みについて

応 対 者：デイブレイク株式会社

内 容：冷凍テクノロジーで食品ロス解決を目指すデイブレイク株式会社を訪問した。事業者が排出する食品ロスは年間約 326 万トン。そのうち野菜や果物が約 100 万トンを占めているところに目をつけ、特殊冷凍技術を駆使した解決策を提案している。特殊冷凍機の販売にとどまらず、自社商品の開発（規格外で店頭に出せずに売れない果物を引き取りフローズンフルーツとして加工）も手がけている。現在は全国各地の生産者と提携し、ロスの果物を購入しているが、より多くのロス削減に挑むために、今後は県や市町村などの地域・地方自治体と連携した動きを計画している。



デイブレイク(株)本社



デイブレイク(株)ショールーム

(6) 婦人保護施設 いずみ寮

調査項目：婦人保護施設の運営について

応 対 者：婦人保護施設 いずみ寮

内 容：婦人保護施設は、売春防止法を設置根拠として、さまざまな問題を抱える女性たちの支援に当たっている。対象となる女性たちは、DV防止法の制定、ストーカー規制法の改正等により対象が広がり、現状ではDVを主訴とする者が多い。利用者の実態としては、実の父からの性暴力被害が半数以上であり、幼少期に受けたダメージにより脳が委縮し知的障害となるケースが多く、ほとんどの利用者にPTSDの症状が出ている。性の侵害を受けることについて国の理解が進まない中、法律のはざまに落ちた行き場のない女性のために、売春防止法改正実現プロジェクトチームを立ち上げ、女性自立支援法（仮称）の制定に向け、施設長みずからがリーダーとなり活動している。



婦人保護施設 いずみ寮の食堂にて

○令和元年8月29日（木）

（7）株式会社エクサウィザーズ

調査項目：介護現場におけるユマニチュードの活用について

応 対 者：株式会社エクサウィザーズ

内 容：「ユマニチュード」とは日本語訳で「人らしくあること」。人と人との関係性・きずなに関する哲学に基づく、フランス発の知覚・感情・言語による包括的コミュニケーション・ケア技法である。2015年に研修事業をスタートし、日本国内におけるケアの質を一定以上に高めることを目指し、人材の育成と活躍の場の提供の両輪を提供する。そのためにAIを活用し、介護の仕方を何も知らずに親の介護をしている人たちにも伝わるコーチングAIをつくり、広く普及するための取組みをつくっていくことを将来の目標としている。



(株)エクサウィザーズ